

報告

「三歳未満児の保育を実践事例から考える」

～開かれた心を育む柔らかかな生活の場を求めて～

バオバブ保育園ちいさな家園長 遠山洋一先生の講演とバスセッション
お茶の水女子大学ECCCELL第一回保育フォーラムから

菊地知子

(編集委員)

今回のフォーラムでは、まず、日々の小さな事例とそれに対するコメントを、遠山洋一先生から伺いました。そのお話を受けて、グループに分かれてバスセッションを展開。続いて、バスセッションのグループごとに報告を行い、最後に遠山先生から、報告を受けてのコメントを頂きました。

ECCCELL保育フォーラムについて

会の初めに、ECCCELL生涯学習部門のリーダー 榎原洋一先生からフォーラムについて説明がありました。当フォーラムは、今回が第一回とは言いながら、平成二十一年度まで五年間続いた寄付講座「ア

ップリカ特設講座」における土曜保育フォーラムを継承しようという意思から企画開催されたものです。アップリカ特設講座「チャイルドケアアンドエデュケーション」は、現在のECCCELLの前身の最も大きな一つであり、土曜保育フォーラムは、常設講座をなかなか履修できない方々にも学びのチャンスをと、ということで開かれていました。

遠山洋一先生のお話

・遠山先生は、保育とは畑違いのところからの転職組で、四十年前に、バオバブ保育園を東京・多摩市に開設。保育の基礎を勉強しないうまま園長になった

ため、日々の保育の現場での経験値でお話をする。

・大事にしようとしている人間観・保育観として、

① 人に対して開かれた心、外界にも開かれた心を育みたい。

② 人は生まれた時から開かれた心を持っている。

だから、それを大事に育てればよい。

③ そのため保育の場に必要なのは「柔らかさ」だ。

ということを持っている。

・小さなエピソードを保育日誌に書きとめ、それを、保育者同士が見合う。エピソードといっても、その保育の場にはない第三者にもわかるような背景や細かな考察も書く、というようなものではない。園内での話し合いも、ケースカンファレンス、といった硬い言葉でくくるような話し合いではなく、「エピソードを語り合う会」という名で、日々の保育日誌に書きとめられた小さなエピソードを使って行うようにしている。

このように、これからお話しされることの前提を話されて、本題である、以下のように見出しのついた事例をお話しされた。当日配布されたレジュメに従い、項目のみ列挙する。

■〇、一歳児の「開かれた心」の諸相

【事例1】響き合いを心地よく感じる

【事例2】リズムを体で感じ、「共に在る」ことを楽しく感じる

【事例3】友達の姿を見て、自分なりに納得する

【事例4】外れた友達に気付き、手を差し出す

【事例5】友達の失敗を自然にフォローし、笑いに変える

■自分を出す、自分を主張する

■さらに開かれてゆく二歳児の姿

【事例6】友達をケアする

【事例7】虫との体験と気持ちを友達と語り合う

【事例8】自分以外のものに心を寄せ、祈る

■柔らかな生活の場をつくらうとする保育者たち

【事例9】目標は「楽しく食べる」

【事例10】 「見守る」ではなく「見て学ぶ」

【事例11】 二人の担任と子ども

【事例12】 「不器用さ」として受けとめる

【事例13】 散歩日和って、こんな日？

【事例14】 ごっこ遊びの広がり

■保育者の感じる心 互いを感じる心

バズセッションと全体での分かち合い

百二十余名の参加者が九人十人ずつのグループに分かれて、遠山先生からのお話に基づいて非常に活発な語り合いを行い、その後再び全体で一つに集まって、各グループから手短かに報告し合いました。「感じることのできる」保育者になること、役職の違いや上下を超えた柔らかかなつながり・大人同士のコミニケーションが大切なのではないか、子どもは元来柔らかく開かれており、大人との信頼関係あるいは大人同子ども同士の信頼関係、保育者の安心感・安定感によって、その心を十分に発揮することができるとはならないかなど、興味深い語り合いになった

ことを物語るような報告がされました。

遠山先生からは、「つたない話から、大変質の高い語り合いがされたことに驚いた」、という感想を頂き、「保育者が心を動かされたことを、心を動かされた時に素直に書こう、主観的でいいんだ、ということ、保育をする者同士で読み合わなければ意味がないので、短い記録でもいいので保育日誌に書こう、ということを確認して以来、記録が生き生きしたものになったように思う。一方で、保護者に伝える・伝わる、ということについてはまだまだ不十分であり、また、保護者のことを伝えてもらい、受けとめる、ということも十分ではなく、これからの課題であると感じている」というコメントを最後に頂き、参加者のお一人だった津守房江先生からもコメントを頂いて、充実感のうちに会を閉じました。

*当フォーラムにつきましては、ECCCELでブックレット化を予定しております。詳しくはそちらをお読みください。